

# 姫路城城下町跡

—姫路城跡第311次発掘調査報告書—



2013

姫路市教育委員会

## 1. 調査に至る経緯・事業の経過

姫路市古二階町54番において株式会社関西住宅センターによる住宅建設工事が計画された。対象地は姫路城城下町跡（県遺跡番号020169）に該当するため、平成25年（2013年）7月23日に確認調査（第305次調査：調査番号20130177）を実施した。この結果、遺構が良好に残ることが確認された。その後、開発主体者と協議を重ねたが、建設計画の変更は困難との結論に至り、本発掘調査（第311次調査：調査番号20130250）を実施する運びとなった。調査期間は平成25年（2013年）9月10日～9月24日で、調査面積は49.7m<sup>2</sup>である。現地調査終了後、出土品等の整理作業を開始し、本書の刊行をもって完了した。

調査体制は以下のとおりである。

### 調査組織

姫路市教育委員会

教育長 中杉隆夫

教育次長 林 尚秀

生涯学習部長 小林直樹

文化財課長 福永明彦

文化財課係長 大谷輝彦（調整）

### 調査機関

姫路市埋蔵文化財センター

館長 秋枝 芳

係長 森 恒裕（事務）

技術主任 福井 優（調整）

同 小柴治子（確認調査）

同 南 恵和（本発掘調査・整理）

主事 鶴田 祐（庶務）

## 2. 調査の概要

調査地は姫路城城下町の南東部の外曲輪内に位置する。発掘調査は掘削土を場内に仮置きする条件のもと西半と東半を分割して施工した。便宜的に西半を1区、東半を2区と呼称する。調査地の基本層序は、地表から約20～30cmの現代の盛土、炭層〔第Ⅰ層〕、約20～30cmの比較的均質な暗灰黄色土〔第Ⅱ層〕、約20cmの黄褐色シルト〔第Ⅲ層〕、約20cmのにぶい黄色シルト質粘土〔第Ⅳ層〕、約20cmのにぶい黄色シルト（自然堆積層）〔第Ⅴ層〕、約30～40cmの褐色シルト（自然堆積層）〔第Ⅵ層〕が存在し、標高9.5mで黄褐色シルト〔基盤層〕に至った（図3）。1区の北西端では標高10.1mで基盤層が出現した（図4）。2区では南東側に向かって基盤層が徐々に下降し、その上位に第V・VI層が堆積していた（写真5）。遺構検出は、第IV層（第1面）と基盤層（第2面）でおこなった（写真1・4）。ただし、2区では第IV層での遺構の識別が困難であったため、第V層・基盤層まで下げて検出した（写真3）。

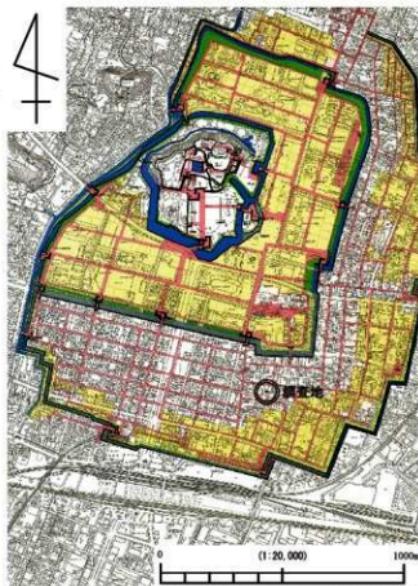


図1 調査地位置図（姫路市1966年道路城跡（城郭図）に加筆）



図2 調査区配置図

### 3. 第IV層(第1面)の遺構・遺物

石組構・井戸(SE1)、土坑(SK1~14・16~20) ピット(P4~6・12・14・16)を検出した。

石組構は調査区の中央で検出した(写真図版2)。幅40~50cmで南北方向に延び、調査区外へ続く。検出状況から石組構を埋めた後、当初の西面の石組列から1石分(約30~40cm)内側に石組列を再構築していた。この石組列に対応する東面に石組が確認されなかつたため、当初の石組構を作り替えたかどうかは不明である。石組構にはしっかりと割石を使用しているのに対し、再構築した石組には川原石が目立ち、上位に大型の割石を積むなど粗雑な印象を受ける。遺物は、溝内からは施釉陶器碗・壺のほかトビガンナを施す施釉陶器行平鍋などが出土し、再構築した石組の裏込めからはガラス繊維のみられる染付磁器碗や蛇ノ目凹形高台の染付磁器皿、施釉陶器植木鉢などが出土した(写真図版3)。これらの遺物の年代観から、石組構を埋めて石組を再構築した時期は幕末~明治期と考えられる。また、石組構直下で検出したP18から出土した施釉陶器片により石組構の構築は近世以降と考えられる。

SE1は調査区の南東端に位置する(写真図版2)。土層断面から第III層が本来の検出面にあたる。ほぼ垂直に1.7m掘られており、土坑の可能性もある。上層(図3の15・18~21層)から肥前系染付磁器碗・筒形碗、肥前系陶器の三島手大皿・砂目を有す皿、瀬戸美濃焼の志野向付・織部向付、コビキBの丸瓦などが出土した(写真図版3)。下層(図3の22層)からは肥前系陶器構縁皿・砂目を有す皿、備前焼鉢・土師器皿・壺、染付磁器細片、丸瓦、平瓦など(写真図版3)のほか連雀下駄が出土した。これらには17世紀前葉のもののが含まれるが、下限として17世紀末~18世紀初頭を降るものではないとみられる。

SK2は調査区の北東端に位置する(写真図版2)。土層断面から第III層と同一レベル(標高1.1m付近)が本来の検出面にあたる。SK2は断面U字形を呈す幅70cm、深さ80cmのSK2-1とそれに切られるSK2-2に分かれる。SK2-1の上部には長軸線上に径20cm大の円礫がまとまって認められ、SK2-1に伴う集石と思われる。遺物は、肥前系陶器刷毛口碗、肥前系染付磁器碗、備前焼鉢・鉢、施釉陶器火入・瓦質土器火鉢、土師器皿・炮烙などが出土し、17世紀後半~18世紀初頭のものとみられる(写真図版3)。

SK14は1.3m四方の方形石組土坑である(写真図版2)。石組は部分的に2段分(約30cm)遺存していた。遺物は、染付磁器小碗・猪口、施釉陶器急須などが出土した。

第1面上層の第III層に伴う遺構として、SK3・4・6及び豊島石製U字溝がある(写真2)。豊島石製U字溝は幅25cm、高さ12cmで、延長2.0m分が遺存しており、連結部分を漆喰で固定していた。埋土から棲瓦片が出土した。

このほか、図3の10層からはトビ Gan Na を施す施釉陶器行平鍋・素wareの染付磁器碗、瀬戸美濃焼染付磁器小碗などの幕末~明治期の遺物が出土した。その下層のSK16は幅2.3m以上、



写真1 2区第IV層(第1面)検出状況(西から)



写真2 豊島石製U字溝(北から)

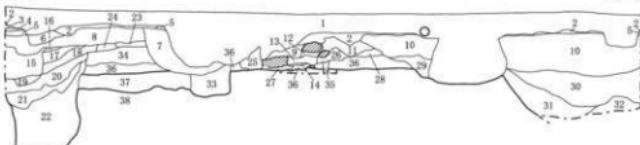


写真3 2区第V層・基礎層(第2面)検出状況(北西から)



写真4 1区第IV層(第1面)検出状況(東から)

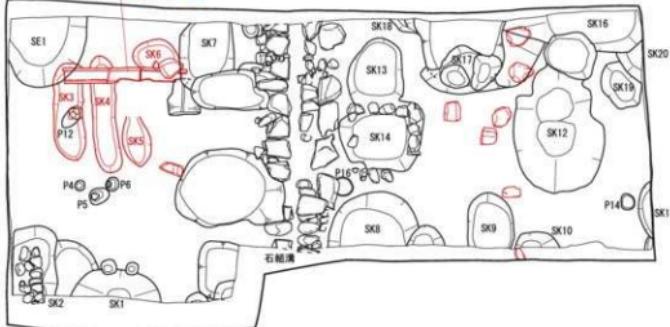
南壁



- 1 壊土・災歴土  
 2 灰層 【第Ⅰ層】  
 3 2.5Y7/6 明黃褐色粘質土 黑色土混じる  
 4 灰層  
 5 2.5Y7/6 明黃褐色土 黑色土混じる  
 6 2.5Y7/6 明黃褐色土 黑色土混じる  
 7 2.5Y7/2 綠灰褐色土 極細砂～細砂 合成 黄褐色土少量混じる  
 8 2.5Y7/2 綠灰褐色土 極細砂～細砂 均質 廃油微量含む【第Ⅱ層】  
 9 2.5Y7/2 綠灰褐色土 極細砂～細砂 均質 混じる  
 10 2.5Y7/2 綠灰褐色土 極細砂～細砂 均質 壓・堆・土混じる 混油含む  
 11 2.5Y7/2 綠灰褐色土 極細砂～細砂 均質 壓・堆・土混じる (再構築された石組列の裏込)  
 12 2.5Y7/2 黄褐色土 極細砂～細砂 壓・堆・土混じる  
 13 2.5Y7/2 黄褐色土 極細砂～細砂 やや粘性あり  
 14 2.5Y7/2 黄褐色シルト 黄褐色土少量含む  
 15 2.5Y7/2 黄褐色シルト 黄褐色土少量含む  
 16 2.5Y7/2 綠灰褐色土 極細砂～細砂 粗砂混じる  
 17 2.5Y7/6 明黃褐色粘質土 泥盛り  
 18 2.5Y7/2 綠灰褐色土 極細砂～細砂 均質 浅黄色土混じる 混油含む  
 19 2.5Y4/1 黄褐色粘質土 壓大織合む  
 20 2.5Y6/6 明黃褐色粘質土 壓・灰土混じる  
 21 2.5Y4/1 黄褐色粘質土 壓大織合む  
 22 10Y8/4 に赤い黄褐色沙質土 中砂～粗砂  
 23 2.5Y5/2 暗灰黃褐色シルト 黄褐色土混じる  
 24 2.5Y7/2 暗灰黃褐色シルト 疏略含む  
 25 2.5Y7/2 綠灰褐色シルト 壓・灰土混じる  
 26 2.5Y7/2 綠灰褐色シルト 極細砂～細砂 やや粘性あり 疏略含む  
 27 2.5Y7/2 黄褐色シルト 粘質土 壓土混じる  
 28 2.5Y7/2 黄褐色シルト  
 29 2.5Y4/2 綠灰褐色土 極細砂～細砂 10層より織ままで弱い 壓・明黃褐色土混じる  
 30 2.5Y4/3 暗灰褐色土 極細砂～細砂 矛合・灰・土含む  
 31 2.5Y4/3 オリーブ褐色土 極細砂～中砂 壓・堆・土混じる  
 32 2.5Y7/6 明黃褐色シルト 黄褐色土・均質含む (SKT)  
 33 2.5Y7/2 黄褐色土 極細砂～細砂 均質含む (SKT)  
 34 2.5Y7/2 黄褐色シルト 均質 【基盤層】  
 35 10Y8/2 黄褐色粘質土  
 36 2.5Y6/3 に赤い黄褐色シルト粘質土 【第IV層】  
 37 10Y8/4 黄褐色シルト (自然堆積層) 【第VI層】  
 38 10Y7/8 黄褐色シルト 【基盤層】

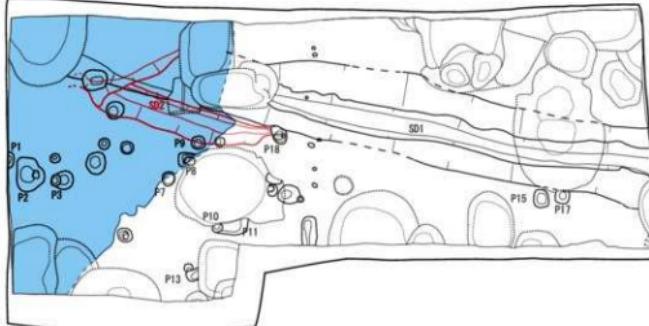
2区

壁島石製印字演



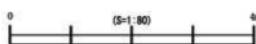
第Ⅳ層(第1面)検出遺構 赤朱書きは上層の遺構

2区



第V層・基盤層(第2面)検出遺構 赤朱書きは下層の遺構。水色は第VI層の検出範囲

図3 遺構全体図・南壁断面図



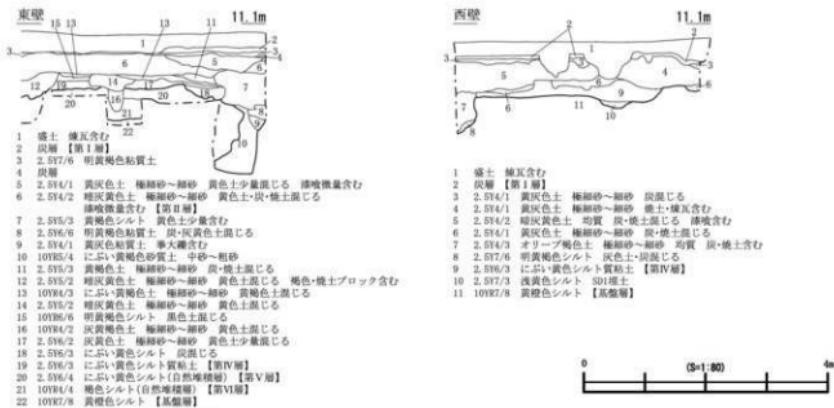


図4 調査区東・西壁断面図

深さ0.7m以上を測る大型の土坑で、18世紀代の雑器類が出土した。また、第IV層からは須恵器杯蓋、土師器長胴甕、平瓦、備前焼擂鉢、土師器香炉、皿、白磁皿、肥前系陶器皿などの8世紀代～17世紀前半の遺物が出土した(写真図版3)。

#### 4. 第V層・基盤層(第2面)の遺構・遺物

構(SD1)とピット(P1～3・7～11・13・15・17・18)を検出した。SD1は東西に走り調査区外に延びていた。幅1.2m、深さ30cmを測る。須恵器・土師器の極細片、磨耗した丸瓦片が出土した。

ピットは第IV層に被覆されず直接基盤層で検出したP15・17と第IV層との識別が困難で、第V層まで下げて検出できたもの(P15・17を除くピット)があり、一概に第V層・基盤層に伴うとは断定できない。P15から染付磁器碗が出土した。

2区では第V・VI層の除去後にSD2を検出した(写真図版2)。埋土はにぶい黄褐色シルトで、遺物は出土しなかった。

#### 5.まとめ

城下町絵図から調査地の変遷を辿ると、当初町屋であった中に第2次本多時代(17世紀後葉～18世紀初頭)に「法院町」が現れ、再び町屋となるが、酒井時代中期(18世紀後半)に「神主寺山伏」となり幕末に至ったことが窺える(図5)。また、江戸時代を通じて磨屋町であったのが、近代に入り古二階町に含まれたことが判る(図6)。発掘調査成果と照合すると、石組溝は敷地境界溝にあたり、概ね1区は町屋として継続し、2区は時期によって町屋と社寺地に利用されたことになる。2区のSE1、SK2が17世紀後半～18世紀初頭に廃棄されたことは、第III層がこの時期の遺構面に同定できるとともに、第2次本多時代後に土地の利用形態が変容したことの傍証となるであろう。また、1区で石組土坑や大型の廃棄土坑が認められたことは、町屋の裏手に位置することを示唆するものであろう。

1. 盛土 塘瓦含む
2. 灰層 【第Ⅰ層】
3. 2.SY1/1 黄灰色土 楊細砂～細砂 黄色土少・灰・燒土混じる 鐵微量含む
4. 2.SY1/2 黄灰色土 楊細砂～細砂 黄色土少・灰・燒土混じる 鐵微量含む
5. 2.SY1/6 黃褐色土 楊細砂～細砂 黄色土多混じる
6. 2.SY1/1 黄灰色粘土質 黄色土多混じる
7. 2.SY1/3 オリーブ褐色土 楊細砂～細砂 黄色土少混じる
8. 2.SY1/6 にぶい黄褐色シルト 黄色土・泥混じる
9. 2.SY1/3 にぶい黄色シルト 【第IV層】
10. 2.SY1/3 浅黄色シルト SD1埋土
11. 10YR7/8 黄褐色シルト 【基盤層】

0 (S=1:80) 4m



写真5 2区下層断面状況(南から)

時 期	町 名	分 区	名 称	備 考
第1次柳原時代(1649～1667)	ときや町	町屋		
第2次松平時代(1667～1682)	ときや町	町屋		
第2次本多時代(1682～1704)	トギヤ町	町屋 社寺	法駒院 寺社	
第2次柳原時代・宝曆8年(1711)	トギヤ丁	町屋		
酒井時代入封初期(1749～)	磨屋町	町屋		
酒井時代中頃(18世紀後半頃)	トギヤ町	町屋 社寺	山伏 神主寺山伏	
酒井時代・文化3年(1806)	トギヤマチ	町屋 社寺	山伏 神主寺山伏	

図5 城下町絵図にみる調査地の変遷



図6 大正14年の街区と『姫路城跡(城郭図)』との合成図



2区第2面全景(西から)



1区第1面全景(東から)



1区第2面全景(東から)



SK14(東から)



SK14(西から)



SK14(南東から)



SK14(南から)



SK14(北から)



SE1(北から)



SK1-2(南西から)



SD2(西から)



石組構造出土遺物

にぶい黄色シルト質粘土[第IV層]出土遺物

1 本書は、姫路市古二階町54番で実施した姫路城跡下町跡(姫路城跡第311次)発掘調査の報告書である。

2 調査は、株式会社履西住宅センターからの委託を受け、姫路市教育委員会が実施した。

3 本発掘調査は、姫路市教育委員会埋蔵文化財センターの南暉和が担当した。

4 本書の執筆・編集は南暉和がおこなった。

5 調査に関する写真・図面等の調査記録、出土品は姫路市埋蔵文化財センターが保管している。広く活用されたい。

6 標高値は、東京湾平均海準水準(T.P.)を基準としている。方位は羅標北を示す。

7 土層別の色調は、農林水産省森林水産技術会議事務局・財團法人日本色彩研究所監修『新版 標準土色範引』に準拠した。

8 遺構は、原則的にアルファベットと数字を組み合わせた略号で表記した。略号はSD一構、SE一井戸、SK一土坑、F一ピットをあらわす。

#### 姫路市埋蔵文化財センター調査報告 第20集

#### 姫路城跡下町

#### 姫路城跡第311次発掘調査報告書

編 集 姫路市埋蔵文化財センター

〒671-0246 兵庫県姫路市四郷町坂元414番地1

発 行 姫路市教育委員会

〒670-8501 兵庫県姫路市安田四丁目1番地

発行日 平成26年(2014年)3月31日

印 刷 松尾印刷株式会社

〒671-0222 兵庫県姫路市別所町小林494